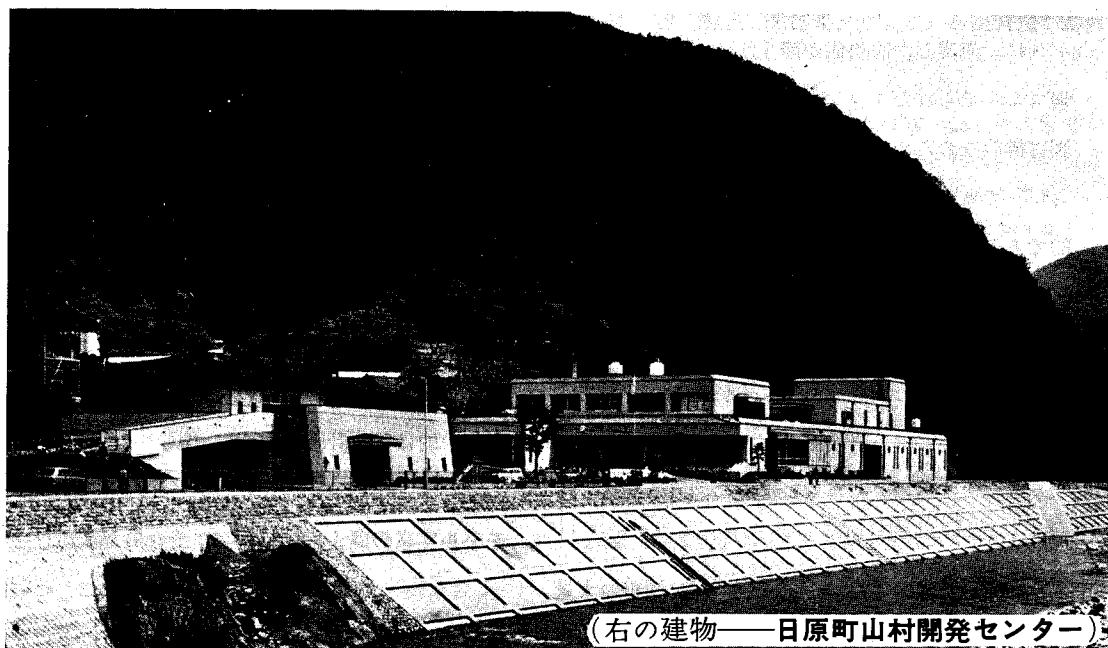


# 図書報だより

号数 第 30 号  
発行日 昭和50年6月15日  
編集発行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷 (有)高浜印刷所



(右の建物——日原町山村開発センター)

## 「町村図書センター」を迎えるにあたって

日原町の貸出図書の歴史は、昭和28年度に寄贈と購入の図書をあわせて328冊を役場の待合所の片すみに並べて「役場図書」として出発したのが始まりです。その後、「公民館図書」として町民に親しまれるようになったものの誠に細々としたものであり、その当時は図書の購入の多い年の昭和32年度で282冊、貸出も昭和35年度で年間1219冊、1日平均3冊でありました。昭和48年11月28日は日原町民として忘れることのできない日となりました。それは、特に、社会教育関係者が永年待ちこがれていた、公民館としての機能を十分に備えた「日原町山村開発センター」竣工の日であります。これは日原町が町民の研修といこいの施設として建設した建物です。この中の明るい場所に図書室が設けられ、12月18日に利用を開始しました。町の図書2,700冊と県からモデル文庫として借りた1,000冊をあわせて展示しましたところ、昭和48年度の貸出は1日平均41冊に上がりました。昭和50年度は期待しているセンター図書1,500冊を借りると今は、4,850冊となります。

将来の希望としては、あと町で1,500冊ぐらい購入したい。それだけの収容能力を残している。基本図書、専門書の充実をはかりたい、字典、図鑑等がほしい。行けば何でも調べられ、研究できる図書室としたい。子供は絵物語を好む。絵の「日本の歴史」はよくでる。昭和49年度図書費48万2千円、昭和50年度は40万円であるが、補正で増額したい。子供の時代にうける読書の感激は一生を通じて心に深く残ることを考えれば図書室の充実はおろそかにできない。県関係者の御指導と御援助をお願いします。

日原町教育委員会教育長 井筒賢一

# 町村図書センターの新設にあたって

**この制度のねらい**——は、町村に図書館の設置を促し、やがては、県内町村それぞれに、充実した図書館が誕生することを期待して樹(た)てられたプランである。だから、各町村立図書館設立のための“呼び水”の役割を担うのが“ねらい”であり、“引き金(がね)”の役目を果たすのが目的である。

この頃、あちこちの町村に、立派な公民館が建設され、また、山村開発センター、あるいはコミュニティセンターなどの設置もすすんでいる。そして、これらの施設には、必ず図書室が付設されている。しかし、現実には、ただちに大量の図書を備え、住民のサービスに万全を期することは困難な点もある。

そこで、県立図書館から、一定期間、図書の大量貸出しを行い、いわば一時的な肩代りをして、読書普及活動をもり上げ、町村読書施設の拡充をはかるうとするわけである。

**設置の基準**——は、昭和50年度は次のような条件を満すものと定めた。

- ①住民1人あたり、30円以上の図書購入予算があること。
- ②しかも、その図書購入予算総額が、20万円以上であること。
- ③図書の管理にあたる専任職員あるいは常時担当者があること。
- ④図書閲覧のための十分な施設——閲覧室、書架等が整っていること。
- ⑤読書会などの積極的な読書普及活動が行なわれていること。

これに照して決定をみたのは、本年度は次の5町である。

日原町、匹見町、石見町、仁摩町、頓原町、この5町には、それぞれ1,500冊ずつ、6月上旬までに配本を終った。このセンターの設置の期間は1年としているが、更新することもできる。また図書の交換は、実績によっては、貸与期間の中途においても行うことができる。

また、これら図書センターを設置したところでは“一日図書館”など各種の文化事業、読書普及事業も集中的に行う計画である。

**モデル文庫の廃止**——昭和49年度に21カ所設けていた“モデル文庫”は、この図書センター制度の発足とともに廃止することになった。現在、廃止された各文庫の図書の回収作業をすすめている。

モデル文庫は、それなりに各地域の読書普及活動の向上に一定の役割を果たしてきたが、何しろ、1カ所あたり1,000冊程度の貸与が限度であった。そのため新設されつつある規模の大きい公民館などの読書施設としては限界がある。

この際、より集中的に、かつ大型化した、しかも町村独自の読書施設の拡充促進のために、抜本的に制度上の切換えを行う必要がある——そのような判断の上になつて、廃止に踏み切った。

従来、モデル文庫が設置されていた地域では、その廃止に一抹の淋しさを感じられるところもあろうが、将来に向つて、図書センターの設置、さらには町村立図書館の設置へと躍進されるように期待したい。

## 各町図書センターの横顔

新たに図書センター設置の決まった5町は、いずれも積極的な読書普及活動をおこない、——住民の手の届くところに本を——と意欲充分である。以下その特色ある横顔を紹介しよう。

- ①設置場所 ②担当責任者  
③貸出時間 ④休館日  
⑤図書購入費 ⑥特色

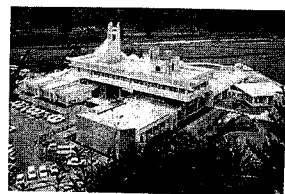
**日原町** ①山村開発センター図書室 ②藤井茂治社会教育主事 ③平日一午前9時より午後5時まで 土曜日一正午より午後5時まで 日曜日一午前9時より正午まで ④祝日のみ ⑤40万円 ⑥これまでも町独自で参考図書—おもに年鑑類、各基本辞典、県内、町内の統計書類等を重点的に集めている。また蔵書 3,500冊の中には古典文学全集児童書をそろえ全町民の要望に答えるべく体制を整えている。昭和49年度には貸出冊数が年間 6,000冊に達し、町民1人が1冊ずつ借り受けたことになる。今年度は今迄図書室を訪れたことのない町民の利用を開拓するのが目標である。

**石見町** ①中央公民館図書室 ②甲村元次公民館長 ③毎日午前8時30分より午後10時まで ④祝日のみ ⑤30万円 ⑥まだ独自の蔵書数は少いが毎年 300冊から 400冊の増冊を図っている。利用は児童、生徒がやはり多いが土曜日、日曜日、午後7時以降には一般の利用も多く、1日当り40冊の貸出がおこなわれている。今年度より地区公民館、5カ所に配本をおこない、また町内全域への放送による広報活動によって読書会の結成と図書室利用の拡大を図る考えである。この点、祝日を除く毎日、加えて午後10時までの開室時間が大きな強味になっている。



(石見町中央公民館図書室)

**匹見町** ①匹見タウンホール図書室 ②堀哲夫社会教育主事 ③毎日午前8時30分より午後5時まで ④第2、4日曜日 ⑤32万円 ⑥土曜日、日曜日には、小中学生を中心に30~35人の入室者があり、子供と一緒に本を選ぶ婦人の姿が目立つ。蔵書数は 8,500冊、これらは町内のへき地の人にも読書の機会ができるよう、へき地集落5カ所にへき地巡回文庫を設け、各50冊を3カ月ごとに交換している。他に地区公民館、2カ所に図書室を設置し社会教育主事による読書指導をおこなっている。タウンホール玄関ロビーには日刊新聞5紙もそろえられ、図書センター設置や休日開館とあわせ、ますます町民の憩いの場として利用されるであろう



(匹見タウンホール)

**仁摩町** ①中央公民館図書室 ②龍野清閑社会教育主事 ③毎日、午前9時より午後5時まで ④第2日曜日のみ ⑤20万円 ⑥利用者の大半は、小中高校生であるが、2割程度は婦人層の利用である。婦人層は読書普及活動の対象として大きな柱であり他に与える効果を考え今後も大いに開拓していく構えである。また3地区に60冊ずつの出張文庫を設け月1回の交換をおこなっている。設置場所は町民のよく利用する商店であることに大きな特色がある。その他“心学講座”と名付けたサークル活動を実施し青年層の開拓も怠たらない構えである。



(仁摩町中央公民館)

**頓原町** ①社会教育センター ②安部徳則社会教育主事 ③平日一午前8時30分より午後5時まで、土曜日一午前8時30分より正午まで ④土曜日午後、日曜日、祝日 ⑤20万円 ⑥社会教育センターを中心として分館に 500冊ずつ置いている。また地域の人のために部落巡回文庫として8地区に20冊~30冊を単位として個人宅に設置している。読書会は婦人層を中心に4グループを結成。今後はこれらをもとに利用者の倍増を図る計画である。



(頓原町社会教育センター)

「建物ができたら、とにかく1日でも早く市民への奉仕を始めよう。」と、十分な内部充実を果さないままに、竣工式と同時に貸出しを行ってから1年。その間、ああでもない、こうでもないという試行錯誤をくり返し、それでも昨年1年の登録総数 2,813名、1日平均貸出し 131冊（蔵書1万）と、曲りなりにも図書館らしい体裁を保って今日を迎えた。

しかし、その利用の実態は、児童登録の9割近くを周辺の3小学校で占め、他9校は、在籍の1割にみたない状態で、はなはだしいのは登録0という学校もあった。成人の利用も少かりで、図書館奉仕の泣きどころといえながら、これでは市民全体へのサービスにはならない。

たとえ、ダンボール箱につめてでも出かけようと話し合い、社会教育課の援助のもとに、まず秋の読書週間の行事として遠隔の2校を対象に、箱詰めの本をポンゴに積み、(一般の利用も配慮し)月2回の出張貸出しを行った。

3名の館員で、図書館での貸出しと併行して行う関係上、配車から何がらすべて市当局の好意の上での運営で、到底ひとり立ちの仕事ではなかったが、出張先の小学校では非常に喜んでいただき、「もっと回数をふやしてほしい。」といううれしい反響もでてくる有様で、それに感激して、マイクロバスで図書館へ児童を招待するというコマもあった。

今年度は更に1校を加え、1歩また前進した。

図書館の奉仕として、年中無休も必須であろう。しかし、当館のように交通の不便な辺地をかかえ、しかも、分館設立も考えられない場合、年中無休を掲げて結局、利用者はこの周辺の市民に限られる。この江津のどの家庭にも図書館の本が何時もあるように、たとえ遅々とした歩みであっても少しずつこのような形での奉仕の環を拡げたい。そしてそのためには、機動力がほしい。1冊でもたくさんの本がほしいときりに願う昨今である。

## 一日図書館を迎えて

早春のうららかな3月15日の土曜日、井尻公民館において、県立図書館のご援助をいただいて伯太町の一日図書館が開かれた。町教委の主催であったが町内の参集者は、老人クラブ、婦人会、学校関係者、PTA、親子会等の団体や広く一般へ呼びかけたが、出席は予想より少く、それでも大体老人の若年層の出席が目立って多かった。

午前中の郷土史講座で藤岡大拙先生の郷土の歴史の講演は一同を陶酔さすほど興味深く且つ有意義に感じた。あとで質問にも熱がはいって時間が足らぬようであった。

特殊図書の展示室には、明治、大正年代の著名な書籍が一杯で、有名なもの、古き時代のなつかしきもの等で中老の人は特に群がってよろこんだ。

また、世界の名画展では、約十数点余り洋画の有名なものが展示されていたり、自動車巡回文庫の貸し出しも行われて、参集者は直接この文庫に接し、分

類された沢山の書籍を見て巡回文庫の理解を深め得た。

午後2時からの座談会には、県立図書館の金津課長、松本主幹、宍倉司書の指導助言をいただいて、子供の読書指導、読書会の進め方、本の選び方、地域の読書活動をいかに進めるか等について熱心に話し合った。続いて映画の上映に一時間ほど当てられたが読書活動の生きた実例を知ることができて至極参考になった。

短い一日に盛り沢山の行事であったが、読書への関心と理解、熱意高揚に多大な効果をあげたことを大変よろこんだ。

山村に住む者の人生を更に豊富にして、明るい読書のよさを知らせていただいて希望に満ちた気持ちで一日図書館を終った。

井尻公民館長

細田正男



“出雲比田の民俗”

畑伝之助著 山陰民俗学会 850円

出雲地方でもとりわけ深い山村の地、比田に生れ育った老郷土史家の、郷土への愛情あふれる美しい民俗書である。比田の今昔から、味覚、祭り、伝承、民謡、伝説と細かく採録されている中で、ひととき光るのは比田の雪の頂であろう。この地の生活に、切り離せぬ雪の持つ美と、恐怖、そして悲しみと喜びが、綴られた行間に浮ぶ。日々変貌していく山村の姿をくい止めるのは、地道な郷土史家の力によることを感じさせる労作である。

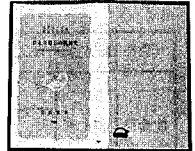


“ひとり暮らしの戦後史”

——戦中世代の婦人たち——  
塩沢美代子 島田とみ子著 岩波書店 230円  
戦後30年——少なくとも日常生活では、戦争の傷痕は消えてしまったかのようである。しかし、無言の痛恨を秘めて生きている人々が多い。

本書はこうした人々、特に種々の事情からひとり暮らしを余儀なくされた婦人たちの苦渋に満ちた軌跡を紹介する。

「スーパーの食料品は、何故4人家族用にバックされているのか」「一人で暮してはいけないのか」彼女たちのひそやかな、しかもたくましい生きざまは、読者に戦後日本を今一度問い返している。



“人は死の際に何を考えるか”

濱田美智子著 講談社 780円

この世に生を受けた瞬間から死に向かって行進し始める。突然な死、悲惨な死、孤独な死、眠るが如き大往生。非日常的であって日常的な死に直面した時、よく対処しうるとの自信があるであろうか。

「死の看とり方研究班」の20年間の研究により、幸せな死に方、幸せな死の看とり方を、患者、主治医、療友、家族の立場からどう受けとめたらよいか解き明かした研究報告。

死の際に悔恨しないために。



“日本仏教”

——この人と思想——  
寺田透ほか 朝日新聞社 1,200円

6世紀半ばに百済を経て伝来し、聖徳太子の奨励によって広まった仏教は、わが国に初めて本格的な精神文化をもたらしたと言われる。

本書は腐敗した奈良仏教を痛烈に批判し、仏教革新に燃えて登場した最澄を始め、現世を大胆に肯定した空海、およびその後の日本仏教を決定的に影響づけた鎌倉初期の偉大な宗教家、法然、親鸞、日蓮、道元の人と思想をわかりやすく紹介している。



“ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち”

リチャード・アグムス著 神宮輝夫訳 評論社 上下各800円

著者の処女作である。最初、児童文学として出版されたが、大人もひきつけ得る寓話的冒険記として話題になった。新しい生息地を求めて移動するうさぎたち。彼らの眼を通した世界を描くことによって、集団についてのさまざまな問題、又、自然破壊への批判、人生観等を考えさせる。



“日本古代文学の謎を解く”

相馬龍夫著 新人物往来社 1,200円

古代史ブームと言われる現今、その太古の昔に“原日本人”たちがどんな言語をもち、どんな文学を使用していたのか、確かなことは何一つわかっていない。しかし「サンカ」と言われる社会でひっそりと存在しつづけた暗号ともいべき絵文字がある。本書は、この「サンカ文字」をとおして、古代の遺跡、遺物に刻まれた絵文字の解読を試み、日本古代文字解明へと導いていく。



“子どもと本をむすぶもの”

いぬいとみこ著 晶文社 1,200円

著者は作家であり、出版社の編集者でもあったが、子どもたちにより良いものを作り出すためには、子どもたちにじかに本を読んで聞かせることだと「ムーシカ文庫」を開設した。

この本は、こうした著者の活動の中で、折りにふれ書いた児童文学への思い、子どもと本をつなぐものについて、外国紀行、ムーシカ文庫のこと、自分の作品のことなどつづったエッセイ集。



“王さまブルブル”

舟崎克彦著 ポプラ社 800円

ブルブルは王さまライオン、まったくどうどうたる立派な王さま。ところが、ブルブルもだんだん年をとってきた。目は悪くなる、脚は弱る、おまけに歯は総入れ歯。でも、それを他の動物に知られては大変。ますます大声でウォー、ウォーって威張って、動物たちを追い散らしていた。それもおどすだけで、獲物は全くとらない。他の動物たちもバカじゃない。ブルブルの様子がおかしいってことに気づきはじめてたのだ。そこで、ある日、ネズミがブルブルのお家へ偵察に行くことになった。……ユーモアとペーソスの漂う、味わい深い作品で、小学校低学年向けの本である。



# 昭和50年度 自動車文庫“しまね号”巡回配本所一覧表

## 八 東 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
八東郡	玉湯町	大谷	大谷小学校前	村竹悦枝	伊藤喜美子	08526 2-7672
		林	本郷公民館	松浦信子	戸谷昭子	08526 2-8569
	島根町	加賀	島根町役場	余村 滋	小谷なり子	085285 15
		野波	島根町中央公民館	渋谷国夫	川本葉子	085285 301

## 伯 太 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
八東郡	東出雲町	東出雲	東出雲町中央公民館	吉儀幸吉	新見淑子	085252 2311(内44)
能義郡	伯太町	母里	伯太町役場	佐々木吉茂	内藤広一	085437 67
		井尻	井尻公民館	長谷川徳市	庄司誠発	085437 32(小学校)
		赤屋	赤屋小学校	大塚申郎		085438 4

## 雲 南 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
大原郡	加茂町	加茂	加茂町社会福祉会館	杉原顕道	佐藤節夫	085449 7111
仁多郡	仁多町	三成	仁多町役場	卯木晃哲	中林蓉子	08545 4-1221
		亀瀬	亀瀬公民館	村上幸枝	米澤 寛	085457 7-0616
	横田町	横田	横田町公民館	三成輝夫	藤原恭子	08545 2-2111
		馬木	馬木公民館	張木重雄	藤原純夫	08545 3-0201
飯石郡	吉田村	吉田	吉田村生活センター	渡部貞雄	山本重明	085474 4-0211
	掛合町	掛合	掛合町町民体育館	佐野孝道	落部富子	08546 2-0013

## 簸 川 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
平田市	鵜瀨	鵜瀨公民館	荒木文子			085376 1
簸川郡	大社町	日御碕	日御碕公民館	吉田重信	吉田靖子	08535 4-5366
		湖陵町	差海	差海公民館	成相一無	今岡房子
	湖陵町	大池	大池公民館	三原昭司	小原芳治	085386 43-2000

## 邑 智 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
邑智郡	邑智町	地頭所	地頭所作業所	落合惣太郎		085577 5277
		粕瀨	邑智町役場	田辺文子	石田道雄	08557 5-1211
	大和村	浜原	浜原小学校	今田弥之助	吉川ツユ子	08557 5-0022
		大和	大和中央公民館	渡辺建蔵	高橋宗憲	085582 1
	羽須美村	口羽	羽須美村役場	斎藤知一	河野寿伯	08558 7-0221
		阿須那	阿須那公民館	斎藤知一	朝比奈政三	08558 7-0221
	瑞穂町	出羽	出羽公民館	宇津田嘉之助	田中哲英	

## 温 泉 津 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
温厚郡	温泉津町	湯里	湯里公民館	中田 賢	山本ミチ子	085565 2527
		井田	元井田公民館	井田秀子	森下秋子	085565 3066

## 那 賀 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
那賀郡	弥栄村	杵東	杵東郵便局前	長野一夫		085537 杵東 1
		安城	弥栄村役場	三浦 賢	田野島照	085538 安城 1
	金城町	雲城	金城町役場	内藤大拙	野田茂俊	085542 20
		波佐	波佐出張所	上山 均	内藤大拙	085544 1
		今福	今福出張所	野田信子	内藤大拙	085544 301

## 鹿 足 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
鹿足郡	六日市町	六日市	六日市役場	橋本雅夫		085677 112
		蔵木	蔵木公民館	篠部義樹		
	津和野町	畑迫	畑迫公民館	萩野克忠	青木幸信	08567 2-0636
		木部	木部公民館	村本輝雄	三家本玲子	085673 1

## 隠 岐 島 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	配本所主任		電話番号
				正	副	
隠岐郡	西郷町	原田	原田公民館	斎藤修造	長谷川直義	08512 2-6657
		五箇村	郡 五箇村郡児童館	忌部正孝	平木吉郎	085125 7452
	西郷町	中村	西郷町出張所	橋本太郎	岩垣幸子	085124 2
	布施村	布施	布施村児童館	森脇益次	升崎長子	085127 8361
	都万村	都万	都万村老人福祉センター	高宮清造	高宮君子	085126 87
	西郷町	西郷	西郷町西郷公民館	藤野嘉治	池田末子	08512 2-0237
		海士町	崎	海士町崎地区公民館	山崎モリ子	元上常松
	海士町	東	海士町東地区公民館	播本鈴子	中川義明	08514 2-0730
			赤之江	西ノ島町赤之江公会堂	吹田一江	
	西ノ島町	浦郷	西ノ島浦郷中央公民館	岩男信子	熊谷 悟	08514 6-0171
		小向	西ノ島小向地区公会堂	宇野祥枝	木村康信	08514 6-0464
		別府	西ノ島黒木中央公民館	小西富夫	板垣美恵子	08514 7-8101

## 福 祉 施 設 コ ー ス

郡	市町村名	配本所名	所在地	電話番号
松江市	大輪町	介護総合指導所	県立身体障害者総合指導所	0852 21-4669
那賀郡	三隅町	聖嶋寮	三隅町向野田	085532 104

## ◆ 人事異動 ◆

◎お世話になりました。

主幹(普及係長) 松本喜雄(教育庁文化課課長補佐へ)  
 視聴覚係長 規家文雄(教育庁社会教育課へ)  
 司書 宍倉忠臣(教育庁文化課へ)

司書 来島弥生(5月1日辞職)

◎よろしく願います。

主幹(古文書係長兼普及係長)

主幹(視聴覚係長) 藤沢秀晴(県立出雲高等学校から)

主幹(視聴覚係長)

島田秀敏(県立出雲農林高等学校から)

主事 内田 融(新規採用)